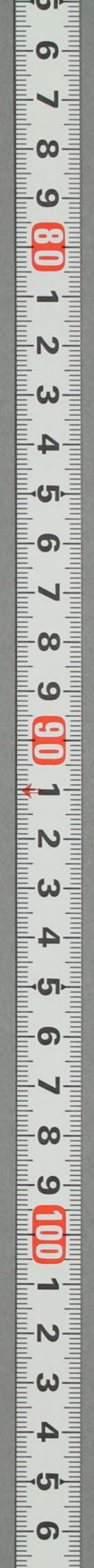




第七
第八
第九

特別
凡
3979
7



凡 4
3979
7



和列舊跡幽考目錄

第七卷廣瀨郡

三	牧	廣	廣	長	百	延	百	百	百	大	成	延
立	野	瀨	瀨	淋	濟	久	濟	濟	濟	福	相	延
巴	基	社	川	寺	宮	池	大	大	大	寺	基	延
基		付					寺	寺	寺			
		御					付	付	付			
		鎮					祝	祝	祝			
		座					迎	迎	迎			
		○					奉	奉	奉			
		神										
		階										
		○										
		奈										
		奉										



昭和二十七年
三月十八日
講求

第八卷 葛下秋

二上嵩

二上山

神願寺

大坂山
葛城岩橋

當麻寺

金堂弥勒 ○未座石 ○獸回石

○曼陀羅 ○新曼陀羅 ○炎上奉

真院 付 源空上人遺像奉

石光寺 付 弥勒石佛奉

横佩基 付 源信僧都夏

腰折田 付 水越

大和川

朝原 付 朝野

達磨寺 付 放光寺

顯崇天皇陵 付 茂烈天皇陵

茅野皇子墓 付 孝靈天皇陵

斥野池 付 飯豊皇女墓

龍峯寺 付 人磨墳

延喜式神名帳

第九卷 忍海郡

角利宮

苗吹杖 付 遊尾

苗味池

延喜式神名帳

第十卷宇智郡

井上皇后陵

若宮社

御靈社付靈安寺事

矢田島笠过

楊井

楊井寺

氏智麻呂墓

阿陀墓三基

阿陀大野

小為手山

信土山

角田川

延喜式神名帳

和列舊跡幽考第七卷

廣瀬郡

百濟宮

百濟七村はくさく川二町むろり西あま

皇居乃後をり川上ハ越智ゆく川

百濟宮ハ人皇女み代御明天皇乃皇宮

なり
日本

百濟大寺

百濟川より二町西あり川乃東より

味村ありけ川乃東ハ十布敷高江

洲群より三重塔一基堂一宇の

よわるふ海のそく

百濟

三

も乃あり
柞は郡のりらり小姑の死なもり
海らりり
五林所曰百済大寺今乃依味百済
ゆはわらりも橘寺の坪石川と云ふ所
乃百済ゆて五岳野乃りりりりり
やまもはは統とせりりりりりりり
海と色聖廟乃神嘗れ大宰の依
又三代實録叙書寺よ百済大寺
十市郡とてりりりりりりりりり
市郡の悦りりりりりりりりり
郡よわの伽藍るりりりりりり
百済百済川と云ふてりりりりりりり

乃寺の傳り錢抄ゆは堂と塔乃中
間よ弘法大師乃りりりりりりり
乃池あり池乃監觸ハ真よわらりり
是錢抄よ弘法大師百済大寺れ
ひり錢抄のび百済乃聖宮乃認りり
はりりりり百済大寺と云ふ建る前
りりりりりりりりりりりりりり
くふせりりりりりりりりりりり
百済大寺は上宮太子熊疑村よ精舎は
りりりりりりりりりりりりりり
宮太子の遺刻は作せ後ひりりりり
百済川のなりりりりりりりりりり
宇下一年百済よ宮殿はりりりりり

百
下
一
年
百
済
よ
宮
殿
は
り
り
り
り
り

代及ふる所へては百餘天寺を号し
後ひく封邑三百戸良田二百町種々
宝をどし施入とせ給ひれば時西
河内乃の子部乃社乃本領なり
塔所なりとてありては社神なり
くして大領なりありては寺は
是よりなりぬ宮處ありては寺は
時西河内乃西民之宮達乃使東
河内乃乃役とてありては後
縣大逆とてありては寺は
明天皇乃遺物とてありては
造宮ありては極天皇乃遺物
て孝徳天皇寺院ありては

後小敏明天皇前
付屬あり天智天皇より天武天皇遺物
うげ給ひては伽藍河内郡ありて大官
大寺ありては
釈迦佛像ありては脇士乃菩薩
墨とてあり天智天皇は像河内郡
し物錦帳ありては新念ありては
そつ統二女天降佛像河内郡ありては
養一讚歎ありてはありては雲あり
三つれとては開眼乃目には雲あり
みりありては天ありては天ありては
くる靈燈乃伽藍ありては堂ありては
神毫のまありては堂ありては

八臂八刀乃昆沙門氏より

丸丸丸の三池

丸丸丸乃三池弘法大師の三池
あり丸字の池は田原本といふ
方中秦楽寺あり丸字乃池は
廣瀬郡百瀬大寺あり丸字の池は
廣瀬郡田中村あり安永寺三教指
帰と聖迹ありと池の中よ三教指
は丸丸丸も今よあり

百瀬川

初撰長所横津園百瀬郡藤原

丹波 百瀬川

百瀬川の南穴暗材あり

長琳寺

長琳寺又の郡教寺在り聖徳太子の建
立より破壊して観音堂一宇あり縁起よ
り推古天皇創りぬ津柳より志川中世
迄ひく柳發筋ありとあり世あり由で
五乃より如法ひくまのに柳敷志丹と
珍ひく龍乃の色美なりぬ聖徳太
子河津磐石よ天皇の御命のびに世後ひを
ば伽藍池とて佛像池にありとあり
由は河相村よ勝地と云ふとあり
乃龍の志のりくハ異なり
龍宮寺と号ありとあり
乃龍の志のりくハ異なり
龍宮寺と号ありとあり

河合村
泊瀬川と倉橋川乃河合るれば長き三田
廣瀬川 河合川同ドあり

廣瀬川神はなごりあさなや心あつめてはかた
草根 十五百番 神武天皇は廣瀬川をたどりし時
末まに廣瀬より娘をひらけり又廣瀬

沃田川

川乃造り沃田村とあり井原抄よ
大和國也わりとるれども備馬樂秘
抄類字名所をどよ山城國とあり
一往安よあり沃田川廣瀬川を
ドあがれり

拾玉
沃田川由記の記に橋たねまぶるを源也

廣瀬社

河合村あり

廣瀬坐和加賣命神社延喜又の所
右大忌神日本又御膳持表加賣命
又倉橋龜穀神 藥やまなりて水徳

乃神よりけ神ハ倭時彦伊弉册の御
子豊宇賀乃靈神也て神狹宮小
神食神是なり 神祇 秘書

山鎮坐ハ天武天皇四年四月小竜田廣
瀬神社御祭也日本本行ハ竜田明神乃
あよわつり天武天皇四年より延喜

七の直元一千あり
▲神階凡真觀元正月廿七日正一位

式註

皇紀六天武天皇六年癸未二月...
廣瀨島之神乃祭...
廣瀨島西宮...
本紀...
山田乃水...
廣瀨社七...
祝詞曰廣瀨...
能...
白久御...
皇神乃...
初穗者...
白賜...
皇神前...

宣延喜

廣瀨野

和名抄小廣瀨郡...
為世大野村

天武天皇十年十月...
廣瀨野...
聖德太子乃...
大福寺...
藥師如來...
勸修羅...
牧野墓

廣瀬村より三十町より西よりあり
 一ノ墓邪ガ墓と云ひく莫邪乃河乃
 母と云ふなりはたふたはたつる
 昔より牧野の牧野乃らみ作色バ作
 雲中して莫邪と云ひはたふたありし
 ころり四也
 牧野墓 亦牧野 大皇大后元先和氏大和國
 廣瀬郡牧野墓あり 延喜
 成相墓
 牧野墓乃十町より東小わりの墓
 乃ころり陵よおるなり昔より牧野墓
 の後東西よるなりはたふたありより
 て成相乃なるなり

成相墓ハ押坂度人大兄皇太子大和國廣瀬
 郡よりあり 延喜 人王世一代敏達天皇の皇太子
 舒明天皇乃父あり
 三立園墓
 牧野墓成相墓乃ふ町より南ふ
 わり右三墓乃墓鼎乃是乃と
 墓乃ころり陵おるなり昔より二墓
 乃墓はたふたはたふたあり
 三立園墓ハる市皇太子大和國廣瀬郡
 よりあり 延喜 人王四十代天孫天皇乃皇太子
 あり

廣瀬郡神岩五座 延喜

廣瀨坐和加守賀賣命神社
 讚波神社
 穗雷命神社
 於神比賣命神社
 於神社

和列舊跡函考第七卷終

和列舊跡函考第八卷

葛下郡

二上嶽

二上山もいり葛城山乃内あり

二上嶽坐豐布都靈神社亦在氏雷子記

大將軍坐大國龜子國津神同

二上山

二上嶽同山并蛭抄類字存所二上山越伊國よ

同右あり

大津皇太子乃屍とつらに二上山より代し

葬於の村大來皇女らみ給ふ秋二首

万葉
 うけそみ人あはれ秋の自より二上山とてせし哉

同
 本道より二上山とて二上山とて二上山とて

大分県平家物語合 新編 卷八 十
我意之二上山乃のりあつた後をよそけぬりぬれ 後惠 治師

大坂山

二上山同山異名藤原里の大坂村といふあり目
本紀は大坂山乃石坂運びくともありけ
山ありとそり信よ逢坂村せりせり
大坂は昔越えまじ二上よお糸だぬる河内あり
崇神天皇御宇十年九月帝踐みよけもんて
率垣安老の山背國より軍共討し率志く
赤良坂と強てよそり書乃昔回媛の大坂と強
て強とあそんとよそり宿軍六十校存疾余
排然ひく強よ昔回媛と討つり 元日本
神願寺

二上山神願寺 帝王 元年 元身代ありむ

葛城岩橋

威衰記曰役行者二上山嶽より神山よ
いりて石橋渡りてとんとそり今もよ
金剛山乃杖のわよそりそたてそり
拳小岩橋乃杖のこまより信よ乃飛
と心橋飛といふ心りやうは心書
岩橋と役行者くけりた乃拳より金拳山
乃通踏よ岩橋渡りけるんとそり石神は
余代うけ信よ只くつと女の拳れ一言に神
歌よとん小くろりをれの晝夜とそり
和とまり信ひより橋とつとそり行者
いりて一言に神と呪禱とそり深谷あり

はるまじりけ半書く小ゆれは只畧れ

後道 舊の長乃終りて後始りし時海地は其の神 無人 相摸

中絶の葛城山乃舊儀のふかき事とてそのあはれ

二上山万法慈院律林寺又ハ當麻寺と云 寺領三百石浄土真言二流

ハ麻呂古親王乃由建立するにめは推古天

皇乃御宇廿年河内國山田郡よ由建立

しりて万法慈院とて伽藍ありて佛り其

西ハ今乃味曾越より律林寺乃地を役

小角徳神と勸修ありて勸修乃勝地なりし

が天武天皇白鳳二年麻呂古親王隠居と

勢對せ終ひく河内山万法慈院と爰の地

ようは終ひも人乃由心ありてまきを天武天

皇よ奏國地終りて終りて靈爰に叙感

由りて麻呂古親王刑部親王に勸修と

志く後小角乃律林に終りて小角報

成りけよありて宅地に二皇子に在り地同

十年寺とありて六回法ありて律林

寺と号するもまきり法乃導師と聖灌

僧正や白鳳十年より延寶八年と云凡一

千年り 百卷抄 相又當麻寺に在り當麻

園見真人と云あり祖父母麻呂古親王乃

親寺と云まきハ今更我姓と寺号と云らん

として當麻寺と改名ありてそ園 百卷抄

金堂跡勸業の薩の丈六の佛あり佛胸よ

一撰平中乃孔雀明王像と納りて撰

孔雀の王は彼小角大峯三重乃瀧乃上よ
まゝ骨骸乃んらおんたひり金存
小指と持りわやも動さるい乃
まゝは生乃骨ぞうけ山よとこ
るふ生よとるりとりあわらば
とく指法ととりて汚まらる像あり
冷け大峯三重乃瀧乃納めをるやぞ堂
内乃靈佛と志るはよとあわらば
金堂乃前よ一言の神乃末座乃石又
瑞籬乃内石乃慈野推現新向乃西より
依堂夢びあふり
曼陀羅堂曼陀羅ハ横佩右大臣堂成
乃娘中將局法名乃誓願小多りて四方

の教主此人とわらるれ蓮花もく一巻あり
わらるるくえ所を修り淨心乃愛相ありあせ
まぐ織殿とく一間ありりくハ新書又香
山上人自誓上人乃抄ありり乃愛相の平品
上生と中品中生乃中間ハ織者乃蹴起四
百十三字あり其詞曰
此大曼陀羅者人王四十六代帝孝謙天王政也
依中將局願織愛繪圖顯莊嚴是則厭離穢惡
境界末願西方極樂世界自茲道心堅固一食
長齋天平寶字七年六月十五日无着世間參
籠此寺但有淨土經書寫願自去寅年夏六月
時時來此場稱弥陀行任坐卧偏專敬至鳥乎
懸張二如來之誓約運思三菩提之法輪故尋

花色厭女身捨金衣初无生於人間不見貪落
於鬢髮久失天上之雲志存明照依之禪尾一
人不圖來以蓮為象寺異相穿井雖高乾无木
之土如志願修得之成五色然間同來一人織
女執絲寄堂乾角造織阿弥陀淨土變一鋪又
寫稱讚淨土經一十卷深須戴受持以縷繡百
袋入之縱使於未來世雖片端之見聞於一佛
土為淨業之主伴此愛相者不簡親疎為憂患
者願之皆蒙授記有得益之切今應欲拜生身
之願織觀無量壽經曼陀羅初文為序起思指
掌善分定散入未利夫人清淨室說一乘來草
提希女莊嚴宮教西方今為中將局願弥陀現
亦然冥臨終正念而傾西夕見佛早則預弥陀

如來來必坐九品之榻願此功德回法界利
生不限人普及四生傍共開生九品之志天平
寶字七年歲次癸卯季夏六月二十三日 西万陀
曼陀羅九百十餘歲河強々延寶年
仲りや物道代補ハ表々々々々々々々々々々々
ま〜〜〜〜靈瑞と〜〜〜〜鬼河津
おりののぞみ〜〜〜〜眼と〜〜〜〜あ〜〜〜〜め心感
肝よ染〜〜〜〜施と〜〜〜〜表具師等あま
〜〜〜〜曇〜〜〜〜條傾末淨と乃身とをま
〜〜〜〜相舊軒〜〜〜〜函座〜〜〜〜納光道場
新曼陀羅と〜〜〜〜さ〜〜〜〜り
▲新曼陀羅八天平寶字七より四百八
十年と〜〜〜〜女御門院乃水字義元二

年小院奏と云く乃後順徳院乃此寺保
延二の十月小勅件と云く同四年阿倍國
浦店ありて維新云く同六年六月廿三
日小切ありぬ盛王良賢法師源孝法眼
鑑文ハ俊理大吏藤原朝臣行能也國冬
▲大上ハ治養年中共大ノ金堂講堂二基
塔鐘樓徑茲坊舎クありと云く也
曼陀羅堂ハ巽ノ角ハ大住此云く也
小海傍リ此抄百奉建立已未大災あり
真院抄生寺乃源室上人乃遺像ハ上人所
ノ乃開眼四十八度ハ後後ハ遺像ありて
淡陽東山智恩院ハ上人なりテ年序代

真院

延後ハ云く或夜夏ハ海乃ハ此住此ハ我
親ハ釘付リ此色乃あり昔徳志乃びく
あり翌朝拜礼あり誠此親ハ作釘そあ
り云く也ハ云く師くてぬ此好まど血乃あ
新ハ奉兵肉樂乃云く又夏乃表わり新本
師ハ當麻寺乃曼陀羅あり云く也ハ云く此し
云く云く乃曼陀羅堂乃乾ハ八切法池あり
云く云く乃青蓮華ありと云くハ云く此ハ
此ハ云く云く此僧あり云くハ云く巡行ハ此
蓮華好ハあり後小角住持首緒神勸徳
のハ清浄乃地あり云く云く此云く云くハ
まけ地座ハ蓮華あり則堂ハ云く遺
像云く此云く云く住生寺是なり抄

世よ境石を以奇異乃靈寶あり

石光寺

石光寺又ハ深野寺先ハ史石光寺ハ天智天皇乃此寺夜々小光あり宮使ヨ思ひ建て
 之の山也後山ヨ三大石あり彫佛像小
 似りりと後奏ヤり三石代油勅三宮ヨ
 之の山也乃堂設立也後山ヨ三石あり
 の者あり又深野寺と云々ハ曼陀羅の
 蓮華と云々後山ヨありハ後山ヨあり
 徴著縁起ヨ寺巽角穿井雖ヨ乾云々
 之云々如志願供得之成止也と云々あり
 ハは取らり又一本乃掛あり後小角佛
 法也ハは掛らり也誓ひ云々あり

校葉三ヶ所にて今おわり

歌書

横佩墓

自巻抄曰當麻寺ヨリ押十金所

横佩在大臣豊成ハ武智麻呂乃長男隆海云の
 御孫正二位右大臣藤原朝臣豊成と云々あり
 横佩ハ廟所乃名ヨリて云々あり天平實字
 八年ノ葬ヤリ自巻抄六十二又乃仇藤原
 豊成ハ天平神儀元年十一月ヨリ卒云々あり
 續日本記ヨリ云々あり

狐井村

當麻寺ヨリハ寺里余一宇ハ堂あり
 惠心院源信僧都乃誕生之地也父ハ正親母ハ
 清原氏天慶五年云宣成大和國葛城郡ヨ
 云々云々云々云々
 正統統書曰和列葛本郡

の人又續本朝性生傳曰葛上郡當麻郷の人
とあり御代葛上郡と在書ゆらるる當
麻郷ハ葛下郡より傳名類聚曰葛下郡ハ
當麻郷とあり昔ハ葛上郡ハ書寫乃わや
ありさるらん只ハ西經生乃比るらん人
僧都乃傳と新書續本朝性生傳性生要
集紙をいよらりてわり

腰折田 西志ら

仁天皇七年當麻邑よむとかな乃まれ
人あり若代當麻郷連とてり角代
釣とどのべぬるふとやまわきとせの
中よ我よあらるらんかハひうそわらんや
心よかりひ綱よあぐとこりたれハ天皇れ

小わを傳らんか人わりや長進をかくはる
因か野見宿禰とてりありたれそ力は
まれ傳色也奏一けり行ふはるはれ
めせとてその日傳直祖長尾市とてり
野見宿禰とてりて郷連とて海ひとと
まあられふとてりひり郷連とてり
速ハ脇骨と縮おられて命試うとひり
去りあ後ハ郷連ハ比代野見宿禰ハ給
りり其邑よ胸折田乃名あるもの
日本

水越 乃北よあり又完臣越也

水越 あり 乃北よあり又完臣越也

抄 至林
の通 遊より聖徳太子乃ひりくを後小道也

大和川

大和國中於川藤合く龜嶽の南
葛下郡乃比乃を川を西より入
とをハ河内國より入

万葉 大和川流於川藤合くを川を西より入

草根 大和川流於川藤合くを川を西より入

次 大和川流於川藤合くを川を西より入

月清集 大和川流於川藤合くを川を西より入

白川歌七百首 大和川流於川藤合くを川を西より入

家集 大和川流於川藤合くを川を西より入

角法 大和川流於川藤合くを川を西より入

朝野

朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野

正法牙合 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野

達磨寺 寺領三十石 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野

竹林抄 白放光寺乃良二町がらり 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野

所園山達磨寺ハ聖徳太子乃飢人と云り 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野

乃人乃塔乃勝月上人乃起立めて聖徳 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野

太子と達磨乃遺像と云り 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野 朝野

の上人同時代乃人なり抄集抄 又乃脱通要
 解脱上人乃墳三重塔式多々 草堂草堂
 城内入達磨寺也号多々記と色 乃有監
 鯛は推古天皇女一年十二月太子斤山
 の逸中して飢人道のころ乃乃ぬきり後見
 後ひく姓をとりせ後ひくもあえ入大
 子飲食をわへ入衣裳とぬきく後見
 ると一後ひくやま 梅を以て別御歌
 志立て於や級照や私記曰山 うさう山斤
 ひひよえそ魚飯 やさそ矢 たたの君も ちる死
無君 ひひよえそ魚飯 ちる寢 卧その後人 合
 ありれ

史の中は

志れてさやくさう山乃ひひよえそ人 合ありれ也

返一

いろいろ名富北河乃結た 大表北 為記 忘れ免
 此の勢も ころり相 聖日飢 人死り 太子う
 前み後ひくその死り 埋ま 葬と 後ひくも
 後日う 子死 強て う乃屍骨也 乃も 後は
 衣服 を権 の上り うみ 屍骨は 多き あり
 きりそ ちぬ 城ら り久 山せ 多く 後ひ く
 眼の 内ひ 多れ 乃人 心と ありみ 聖れ
 聖志 多き る事 あり実 ちん 多き 後ひ あり
紀日本 今乃 多き 山乃 志り 乃碑 後ま
 多き 多き 乃是 八東福 寺惟 智和 尚の

三つまつりあり

放光寺

達磨寺より押二町なり 王林 苗世

五寺村と云ふ所より礎石あり

放光寺ハ又五寺と云ふ聖徳太子御達磨立回

十六ヶ寺乃目録よのこり 王林 依養乃會月

よ尊像光輝たり 王林 山靈瑞光

感ゆしくて推古天皇伽藍地造営あり

放光寺と号とさせ後 起録

顯宗天皇陵

人皇女四代顯宗天皇ハ傍丘磐杯南陵

大和國葛下郡 延喜 又ハ 紀 磐石上陵

備 帝 御宇 三月四月八日宮あり

後ハ 日本 延喜七年迄凡一千百九十二年

武烈天皇の陵

人皇女六代武烈天皇傍丘磐杯北陵大和

國葛下郡 延喜 御宇八年十二月

城宮ありて 日本 延喜七年

二年十月ハ陵より 日本 延喜七年

迄凡一千百七十四年

菟澤皇子の墓

菟澤皇子ハ 大和 國葛下郡

みあり 延喜 菟澤皇子ハ 大和 國葛下郡

御子也 延喜 菟澤天皇の皇孫也 本 紀日

孝靈天皇陵

倭よひくせあ乃坂の所りて馬乃坂
坂といぬ奉乃墳戸といふ所あり東の
あしひ一基あり一田島とをりたり
孝靈天皇八斤丘馬坂陵大和國葛下郡よ
あり延喜御宇七十六年二月為所ちり後
ひと孝元天皇六年九月は陵よりく
身る日本延室七年と九一千八百九十四
年九

肩池

達磨寺良邊葦が池といふあり
肩池ハ推古天皇十八年よあり
飯豊皇女墓

飯豊皇女ハ埴日墓大和國葛下郡よあり
延喜
顯宗天皇五年十一月為後人死日本延室
七年と九一千八百九十一年九

龍峯寺

當麻寺より北中里なるり為世祖守
村といふけしむる

龍峯寺又ハ掃守寺といふ所乃所代の
皇子よりやゆけ龍と化して雲よ系
とく行方たふし断思修長の所あり
寺代建訪峯寺といふ所一後ひけり

柿下人麿墳

柿下村乃なりりよ人麿乃墳あり柿
本寺といふ茶室あり

柿下朝臣人麿の愛めして生息後ひより
古墳わりの地村老と云ひ此の地は
一里に亘り袋草子朝野合載後世編物
詞林採葉後本朝文粹をてめ色り乃朝臣
乃生息後ひより此の地は
浦乃人麿れ古墳の碑張曰人麿乃此の
孝昭天皇乃皇子天足彥國押人命世
よ後ひとして敏達天皇乃御宇よあり
く乃門迄よ柿樹わり是よりるん柿下れ
氏と後おとまぐ母よ敏達天皇八十帝郡
殺余幸出宮よあり一由をると日本紀よ
りてり葛下郡と十帝郡と別郡と
以ともそ程遠くもあらざりて是は

や柿本乃氏後ひをる後を傳りるむ
又乃祝は古今集後乃よひまう石見國よ
家名と云ふ人乃後苑乃柿樹より人麿化
生後ひより柿下の氏とぞ後りきりみ朝
既るん孝昭天皇より世々乃末系よて傳り
りてり其の地は乃生息此の地は乃
取所と云ふありと云ふもめ色りて傳り
又或人古祖國よ人麿乃古墳ありて教
わりり色あり海に記奉りありてり
何色バ海上郡葛下郡古野郡ありけ
れ色人麿の墳よと云ふも傳り人麿
乃事ハ此の地は乃記奉りてり色バ
は西乃石文よあり

葛下郡神名帳十八座

葛木倭文堂天羽雷命神社

長尾神社

河内坐神社

石園坐多久坐玉神社

調田坐一草厄古神社

葛木御鯨神社

金村神社

志都奏神社

深溝神社

當麻山神社

伊射奈皮神社

大坂山神社

當麻都比古神社

穴幡神社

葛木二上神社二座

和別舊跡函考第九卷

忠海郡

角刺宮

忠海村より西より西辻村東より東辻

村南より南新岡村より北ありは忠海

村や皇宮乃後より先

角刺宮は人王女三代清寧天皇五年乙丑

御より後ひく皇太子億部王と水戸弘

計王と平小御位成ゆけりありそは後ひ

くば御位もあはれ日成後より御妹成を

おりしり飯量青皇女忠海角刺宮あり

臨朝東政三後ひく忠海飯量青

皇と名系後ひ文世より奇成なりてうふ

や海と入よ日本 見欲や也海のこ
乃より久紀若良角刺の交あ乃物也也
日本紀よよりあり柘敵豊皇女ハ清寧天皇三
年七月角刺宮あて興支りあてゆり
人よより後ゆハ一まび女乃道と志りゆ紀家
の異るり下よりあらんその後交會乃道あり
西よりありきるところん日本或又より道あり
を紀とる也

魚吹社付遊也

魚吹社乃神ハ多あまきく 遊也ヤ行海也
あまきく 魚吹社乃神ハ多あまきく 遊也ヤ行海也
あまきく 魚吹社乃神ハ多あまきく 遊也ヤ行海也
あまきく 魚吹社乃神ハ多あまきく 遊也ヤ行海也
あまきく 魚吹社乃神ハ多あまきく 遊也ヤ行海也

魚吹社乃神ハ多あまきく 遊也ヤ行海也
魚吹社乃神ハ多あまきく 遊也ヤ行海也
魚吹社乃神ハ多あまきく 遊也ヤ行海也
魚吹社乃神ハ多あまきく 遊也ヤ行海也
魚吹社乃神ハ多あまきく 遊也ヤ行海也

魚吹社乃神ハ多あまきく 遊也ヤ行海也
魚吹社乃神ハ多あまきく 遊也ヤ行海也
魚吹社乃神ハ多あまきく 遊也ヤ行海也
魚吹社乃神ハ多あまきく 遊也ヤ行海也
魚吹社乃神ハ多あまきく 遊也ヤ行海也

和列舊跡幽考卷九卷次

和列舊跡幽考卷九卷次

宇智郡

并上皇后陵

古野川古才里むらり南山山村あり

并上皇親王と聖武天皇乃姪宮あり孝徳

天皇乃由妹よそゆりきり寶龜元年元仁

天皇の皇妃よそゆりきり寶龜元年元仁

他戸親王と皇太子小皇孫ひが皇妃あり

此心ありつるきり寶龜三年皇妃乃位

他戸親王乃皇太子の位とありきり同四年

大和國宇智郡波宮に宮ありあめ後ひ

同六年四月皇妃皇太子ありしれせ後ひ

あり

後日

寶龜七年

九百六年歌

延暦十九年井上内親王は皇孫乃佐代親
王と云ふ山陵と号す皇孫乃佐代親
使ハ從又佐下葛井王より親衆

若宮社 此山村あり國史

若宮は雷神よて神あまのふみまた鹽齋の井上内
親王御著帯ありあがれまはり神で後よ
此産ありおのこ此ふあれごとく此若宮雷神と
ぞり此その此産乃而は大神御小山也傳
それより産屋の奉とけひひきり雷神奉
後ひく此母乃皇孫ありびよ兄の他戸親
王のあがれまはり奉ありはこころめ
物くくろみ此くくろり帯よ此徳とけ人臣

延暦一後ひよりあごめつ後るんとて神よ
孫ひて若宮と号し後ひ記靈安寺 縁起

御靈社

靈安寺小ありむ多村より寺屋南を

而と雲安寺村也いふ

御靈社乃并上皇孫他戸親王此也記と
とり此より上一人より下百民とるや神
後ひくく世中安より相とそ勅使と云いり
あがめりまはれ此靈の社とゆり寺をればと
て靈安寺とそり靈安寺 縁起

本社ハ御靈井上皇孫東向

北牖ハ早良親王南向

南脇ハ他戸親王如向
本社三座若宮一座本比ハ推胎観音聖観音
千手観音如意輪観音ありて弘法大師の
まゆみく安曇より身つより本地堂とあり
より 靈安寺

▲再真の人王百二代攝光院乃此宇正長元
年の秋共火よわたりて神社佛堂本比四化
乃像を一時乃よりとりとるなり乃像ハ尉司小
あかしくひりりいさばいさるり件とよふとさ
ど細もの北島唯三辰乃沖靈大明神乃
記像とありて安曇より靈安寺あり
音像とありて安曇より靈安寺あり
ひ成純より 靈安寺 縁起

矢田島蓋過

の條村ハ河東今井村小蓋過堂あり
しうすまよりいれよとのけうやぶれて
るりありなり

矢田島蓋過ハひりりいさばいさるり件とよふとさ
ど細もの北島唯三辰乃沖靈大明神乃
記像とありて安曇より靈安寺あり
音像とありて安曇より靈安寺あり
ひ成純より 靈安寺 縁起

此處より月毎に油をてきあげくようなり
か、天曆の中康成重病ふりてとり
たり、乃く心をもつもの成ありて業を
殺母れ罪なり、ゆりて是は地獄にぞ入る
れその炎燧乃肉よ、夫回寺乃地獄なる油
をり、後ひく獄卒よ康成とあひうけ
後中とせひひより獲生をり、心とらひ
て、夫回寺よ油をけり、奉他念あり、或
曉夫回寺よ油をてらんとかつり、さるよ
楊井のりり、小地、茲を來、儘油をて
ふより、後をく奉る奉り、あれ、家なり
敷りて、礼拝とらきん、その志を、ぞり、え
由、蓋とけとらきん、より、蓋、乃、あわり、其

後康成のみおありて、油よきとら、これ、性生
とら、り、きり、夫回寺縁記天慶五年より延寶七
年迄凡七百廿八年なり

楊井

蓋、過より、西八町、より、須惠村、乃、津、
よ、あり、井、乃、楯、九尺、堅、五、尺、り、と、蓋、
り、油、あり

楊井寺

次、野村、よ、あり
楊井寺、天曆、中、氏、者、而、康成、が、建、立、
り、り、天文、廿二年、鑄、造、乃、陸、の、銘、あり、
く、乃、く、り

氏智麻呂墓

宇野村、よ、あり
氏智麻呂、乃、後、阿、陀、乃、墓、大和、國、宇、智、郡、

ふあり延喜式智麻呂の不比等乃長男なり
天平九年七月諸見ありびよ男八幡氏
りりて正一位とありてをた大佐小佐と
ましつがその日菟とくまこれ後日本紀年六十八帝本
天平九年より延喜七年迄九九百四十三
三あり

阿陀墓三基

一基ハ五条村より一里なるりしと云
方ふあり信よ王乃墓と云河川村
ありあり一基ハ六条村より二里なる
東山あり新野川より南乃あり
南阿陀村乃のふあり信よ王墓
と云一基ハ六条村より三十町なるり

うとらよあり信よ王墓と云一し
しあもやありをむし墓より大乃
叙あまこりあり人ありを後
とゆくありとけりと云一の墓
よはありとけり信よ三基ハ
とわりりてをまはるの云云

阿陀墓ハ大和國守智郡小あり延喜年
天皇乃の藤原乙牟漏乃父あり
乃墓ハ親王ありびり雷神を乃
ハありびやありとあり

阿多田野

類字若而大和國とわり

万葉 志麻呂のひく 秋風吹ふにわづは秋風吹ふのむら

女は秋うらわのうらわのむらありわづは秋風吹ふよとて 類聚

秋風よとげがひらるる秋のわづは秋風吹ふよとて 類聚

小高平乃山 西の山ありて 類聚

安大部玄小高平乃山の標の葉をへく 類聚

信志山

澄月舟枕曰或紀伴のまのまの万葉集歌

小本道入志真志山とまゝ大和國の交

際也今昔新古今集の羽よまゝとて

大和紀伴乃由境や

能宣朝臣大和赤打山ありてすまをりて

のまゝとて秋物けく海ありて傳りまゝ

わたりりまゝ 波根傳まゝ小本のまゝ

新古今 志麻呂のひく 秋風吹ふにわづは秋風吹ふのむら

角田川

能兼類聚よ駿河國入今 但大和國信

志麻呂のひく 秋風吹ふにわづは秋風吹ふのむら

舟枕曰 宇智郡よあり

八雲山抄 舟枕曰 宇智郡よあり

舟枕曰 宇智郡よあり

舟枕曰 宇智郡よあり

舟枕曰 宇智郡よあり

舟枕曰 宇智郡よあり

宇智神社
 阿陀比賣神社
 高天原野神社
 高天原野神社
 丹生川神社
 丹生川神社

一 落尾神社
 二 荒木神社
 一 落尾神社
 二 荒木神社

和列舊跡幽考第千卷終

卷十

三十

